

キャブ

ウェブサイト制作・運用コンサルティング

キャブ（東京都千代田区）は、宿泊業と官公庁を専門にウェブサイトを制作・運用を行うコンサルティング会社。国土交通省国土保全局ウェブサイトの制作・運用や公共サイトのアクセシビリティガイドライン策定業務を

通して、JIS規格に適合する技術と、変更を即座に反映する更新スピードを培ってきた。アクセシビリティと



ロワジール沖縄が採用

は、「ウェブを利用する全ての人が、年齢や身体的制約、利用環境等に関係なく、ウェブで提供されている情報に問題なくアクセスし、コンテンツや機能を利用できる」ことを指す。公式サイトのリニューアルの依頼に対しては、まず既存サイトを徹底的に調べる。アク

特許出願中の独自技術

セス解析とアクセシビリティ調査を行い、問題点とその旅館・ホテルの強みを分析する。また3月に一度、アクセス解析報告を実施し、更新のポイントを顧客と協議。「エリアターゲティング」など技術的な提案も行う。

このエリアターゲティングの最たるものが、特許出願中の同社独自技術で、今年4月からロワジールホテル&スパタワー那覇、8月から熱海温泉ホテルミクラスに提供をはじめた「おもてなしコンテンツ」だ。宿のサイトに

にアクセスしているユーザーの都道府県を瞬時に判別。ユーザーの現在地と宿との天気、気温をサイトに表示する。宿への各交通手段や乗継ぎなども自動表示する。国際会議などグローバルなMICE会場となるホテルのサイトに組み込み、世界から集まる参加者に対して、自国と会場との天気、交通アクセス、時差などを自動表示させることもできる。

おもてなしコンテンツは、ホテルエピナール那須、ホテル日航東京などにも導入予定だ。